

# 2016年3月期 決算説明会

**2016年 5月 25日**  
**株式会社ハマキョウレックス**  
東京証券取引所市場第一部：9037



- I. 2016年3月期 決算概況
- II. 2017年3月期 計画
- III. 2016年3月期 決算実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

# I . 2016年3月期決算概況

# I-1. 2016年3月期の業績

営業収益は、952億 4百万円（前年同期比 +3.6%）

経常利益は、83億 22百万円（前年同期比 +18.6%）の増収増益

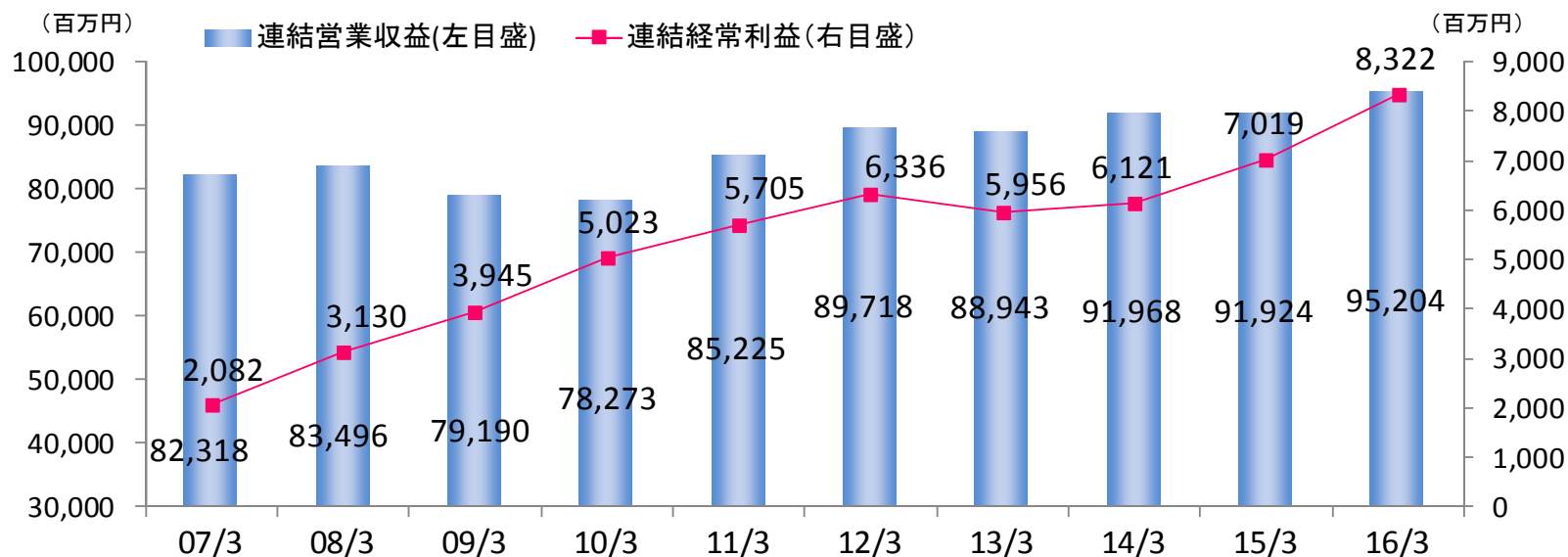
項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 95,204百万円	+3,280百万円 (+3.6%)	+1,004百万円 (+1.1%)	・物流センター事業での新規荷主獲得 ・運送事業での新規子会社取得、新規荷主の獲得および近物レックス(株)での運賃単価の料金見直し
営業利益 8,108百万円	+1,377百万円 (+20.5%)	+8百万円 (+0.1%)	・物流センター事業での売上増加 ・運送事業での売上増加及び燃料単価減
経常利益 8,322百万円	+1,303百万円 (+18.6%)	+122百万円 (+1.5%)	
当期純利益 4,726百万円	+835百万円 (+21.5%)	+226百万円 (+5.0%)	

※1 計画は、2015/10/29発表数値との比較

# I-2. 業績推移

	連 結					増減額 (率)
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	
営業収益	89,718	88,943	91,968	91,924	95,204	+3,280 (+3.6%)
営業利益	6,311	5,838	5,916	6,730	8,108	+1,377 (+20.5%)
経常利益	6,336	5,956	6,121	7,019	8,322	+1,303 (+18.6%)
当期純利益	3,275	3,101	3,066	3,890	4,726	+835 (+21.5%)

# I-3. 収益構造



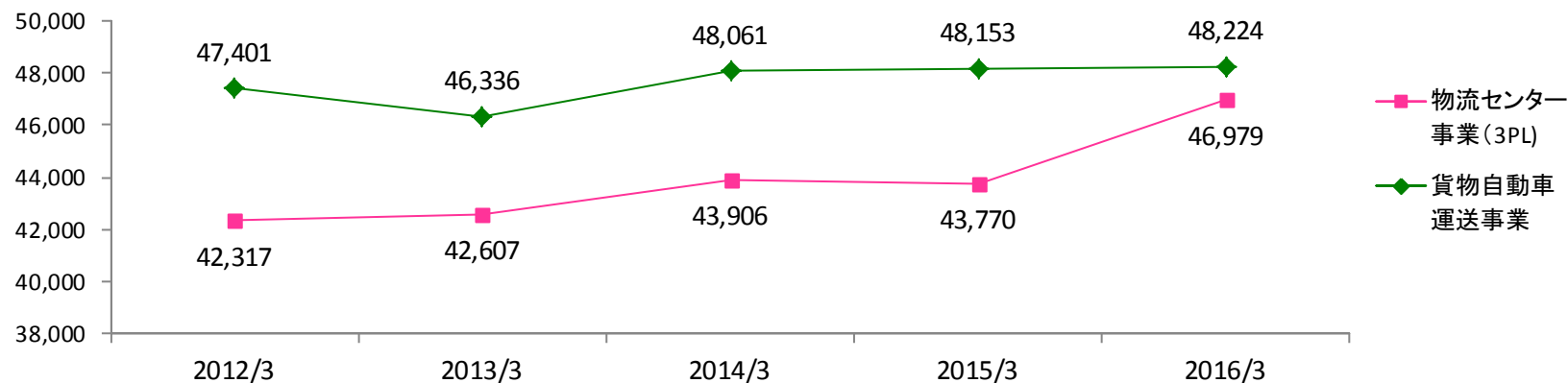
連結業績	
営業収益	増 収 (過去最高)
営業利益	増 益 (過去最高)
経常利益	増 益 (過去最高)
当期純利益	増 益 (過去最高)

# I-4. セグメント情報の推移

(連結:百万円)

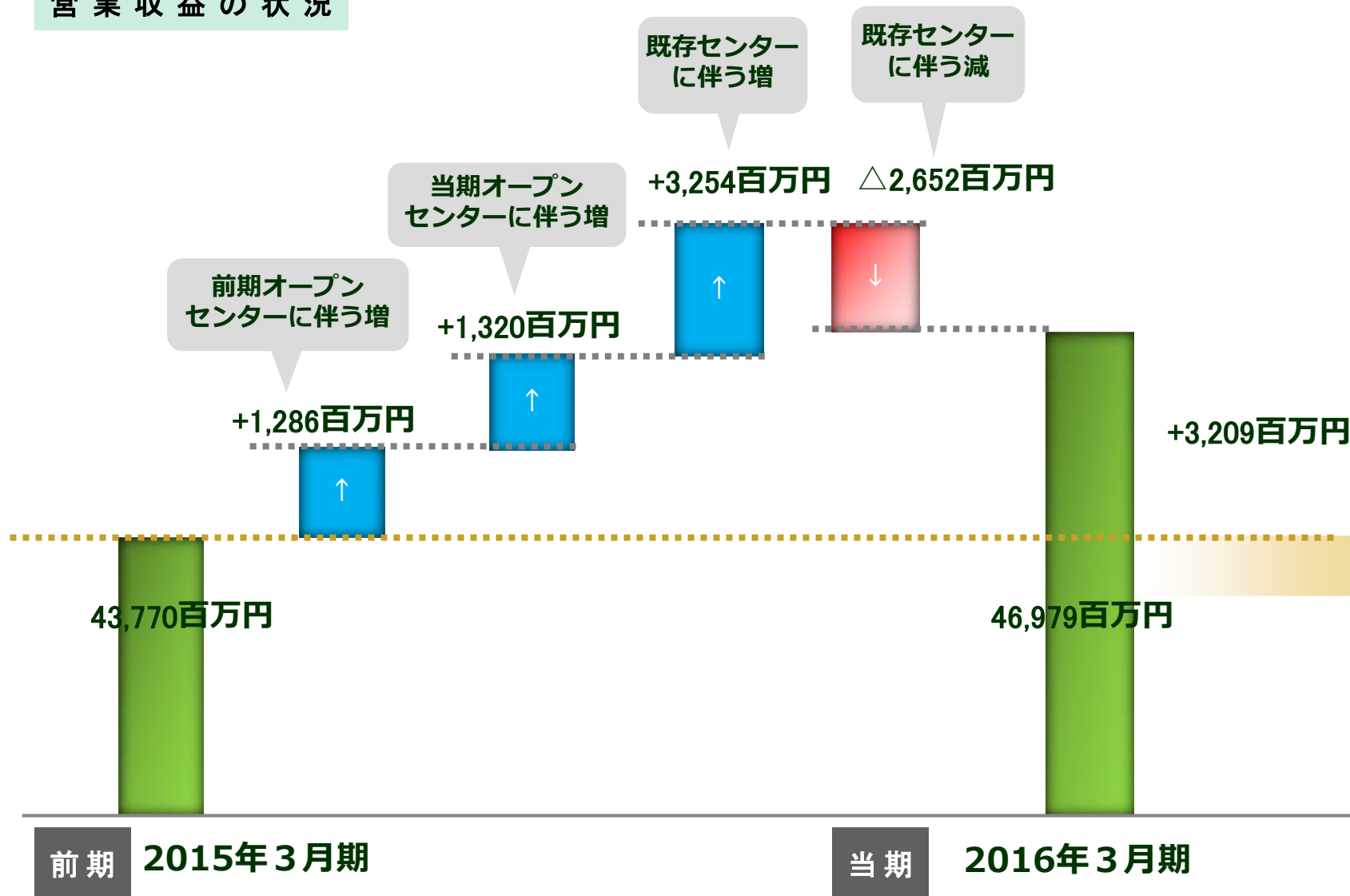
		2012/3 (構成比:%)	2013/3 (構成比:%)	2014/3 (構成比:%)	2015/3 (構成比:%)	2016/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	42,317 (+47.2%)	42,607 (+47.9%)	43,906 (+47.7%)	43,770 (+47.6%)	46,979 (+49.3%)	+3,209 (+7.3%)
	営業利益	4,991	4,434	4,203	4,670	5,316	+646
貨物自動車 運送事業	営業収益	47,401 (+52.8%)	46,336 (+52.1%)	48,061 (+52.3%)	48,153 (+52.4%)	48,224 (+50.7%)	+70 (0.1%)
	営業利益	1,315	1,396	1,711	2,055	2,789	+734

営業収益の推移



# I-5. 物流センター事業(3PL)の概況

## 営業収益の状況





# I-6. 物流センター事業の稼働状況

## ●新規受託及び稼働

取扱品目	① 前期受託 未稼働	② 当期 受託	③ 稼働		④ 当期 未稼働	①+②-③-④ memo
			既存※1	新規※2		
食品		3社	2社	1社	-	
繊維・アパレル		4社	1社	2社	1社	当期受託1社
医薬・医療	2社	2社	1社	3社	-	
雑貨	1社	5社	2社	4社	-	
計	3社	14社	6社	10社	1社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

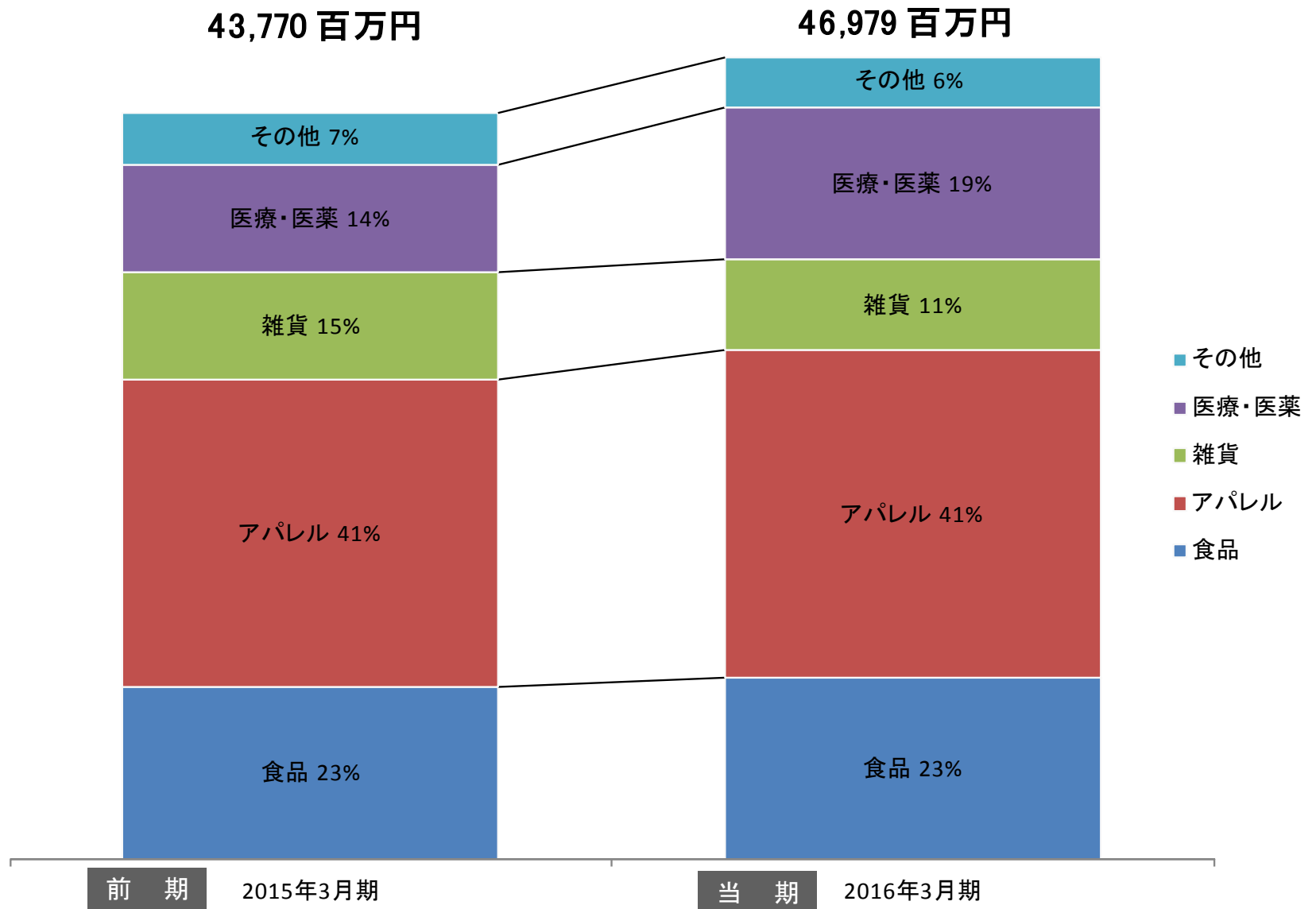


## ●物流センター数

2016年3月31日現在

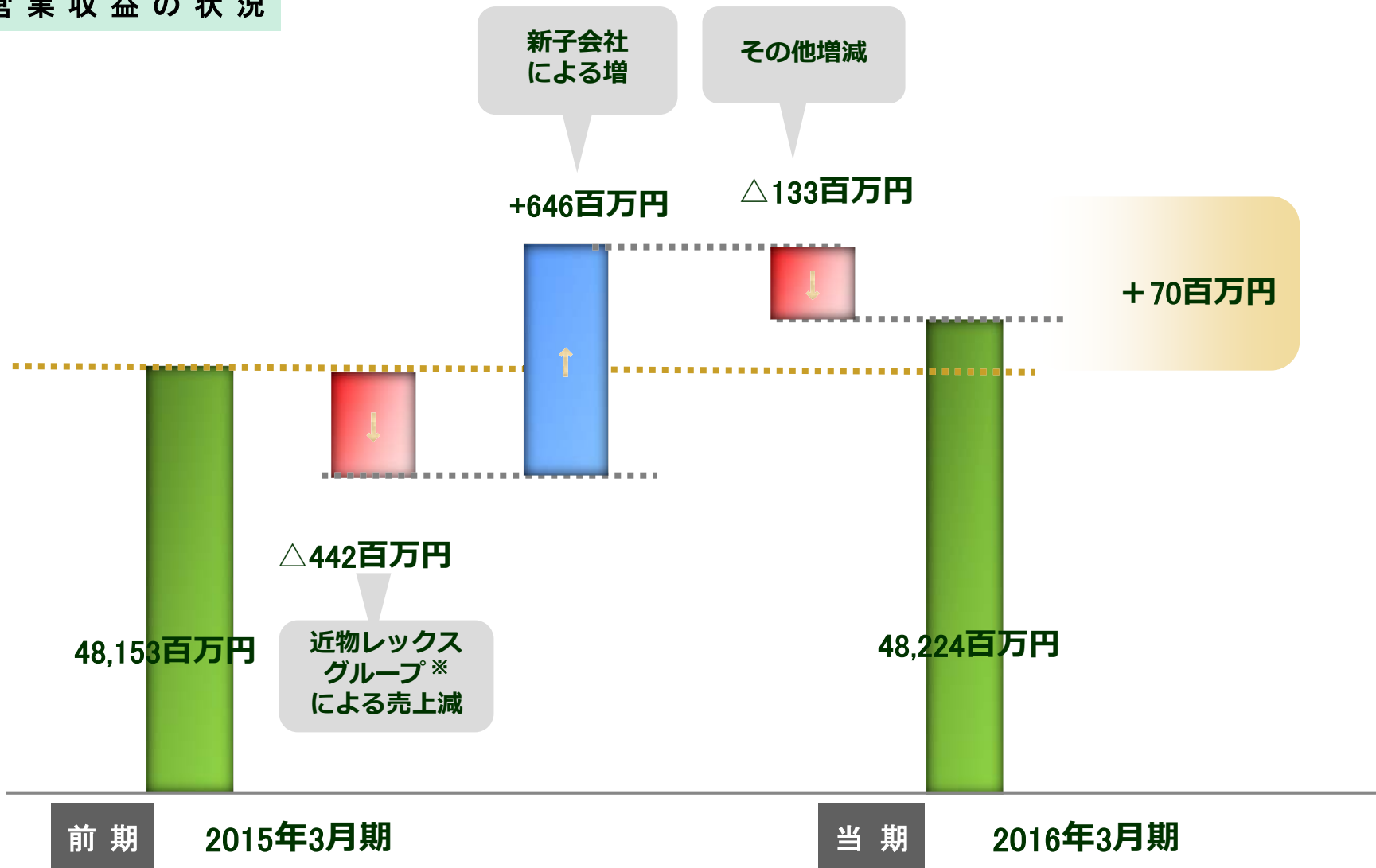
自社センター	27 (292,873㎡)
借用センター	60 (705,862㎡)
計	87 (998,736㎡)

# I-7. 物流センター事業の取扱品目別売上高



# I-8. 貨物自動車運送事業の概況

## 営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス㈱とその子会社3社です。(都運輸㈱、三重近物通運㈱、茨城県貨物自動車運送㈱)

# Ⅱ. 2017年3月期計画

# Ⅱ-1. 2017年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	101,000	+5,795 (+6.1%)
営業利益	8,800	+691 (+8.5%)
経常利益	9,000	+677 (+8.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,000	+273 (+5.8%)
設備計画	3,000	***

(平成28年5月9日公表数値)

(百万円)

## セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	51,100	+4,120	(+8.8%)
	営業利益	5,700	+383	(+7.2%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	49,900	+1,675	(+3.5%)
	営業利益	3,100	+310	(+11.1%)

## Ⅱ-2 . 経営指標

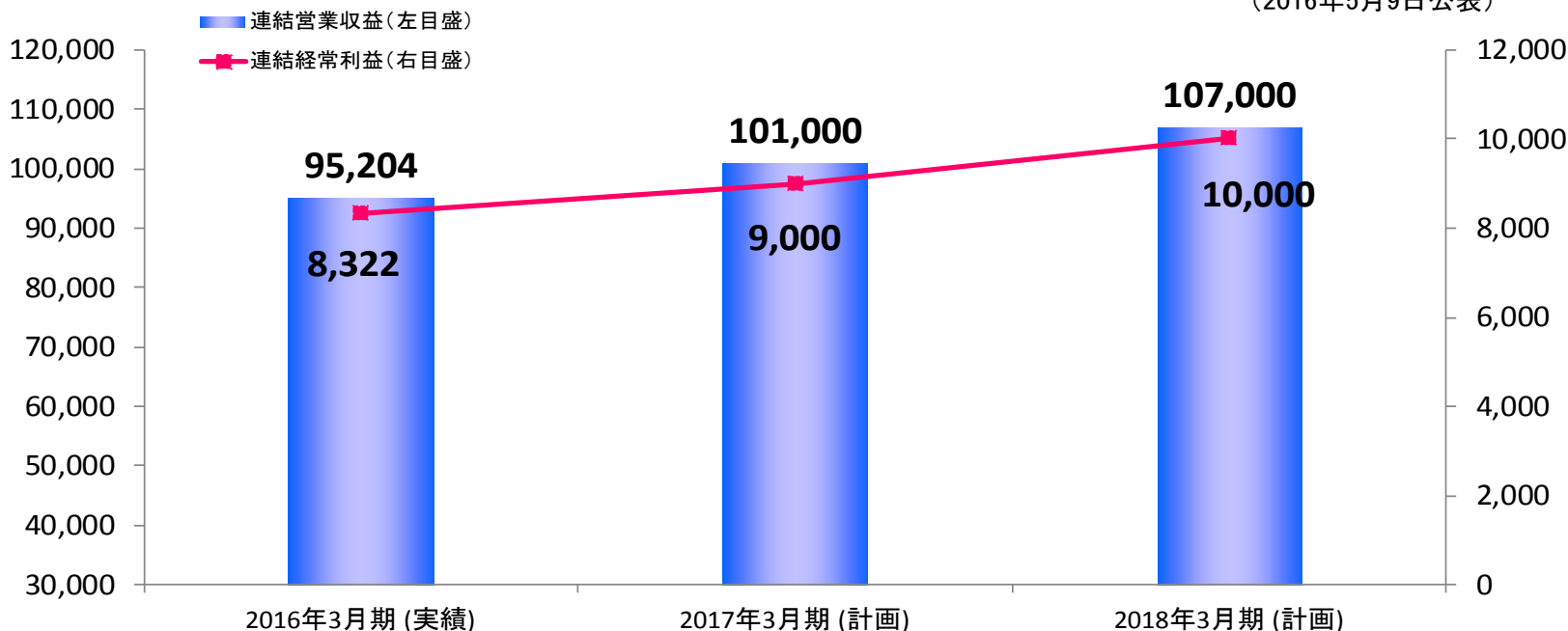
	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	185.62	183.55	232.91	257.79	263.08
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	11.0	10.4	12.4	12.5	11.2
1株当たり純資産(円) 〔BPS〕	1,610.83	1,760.54	1,982.35	2,225.18	2,488.26
総資産経常利益率(%) 〔ROA〕	6.9	7.0	7.6	8.3	7.5
営業収益営業利益率(%)	6.6	6.4	7.3	8.5	8.7
営業収益経常利益率(%)	6.7	6.7	7.6	8.7	8.9
1株当たり配当金(円)	40	42	44	27.5	40

# Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (計画)	2018年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	95,204	101,000	107,000
経常利益	8,322	9,000	10,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,726	5,000	5,300
1株当たり当期純利益	257.8	263.1	278.9
営業収益経常利益率	8.7%	8.9%	9.3%
設備投資計画	156億円	30億円	90億円

(2016年5月9日公表)



## Ⅱ-4. 今後の取り組み

### 1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

#### 3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、**提案型物流企業**をめざす  
各支社及び統括部、管理部が一体となり、無駄なコストの削減をはかる  
センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

### 2. 3つのキーワードを中心とした取組みの継続

「日々収支」「**全員参加**」「**コミュニケーション**」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦してまいります。

### 3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

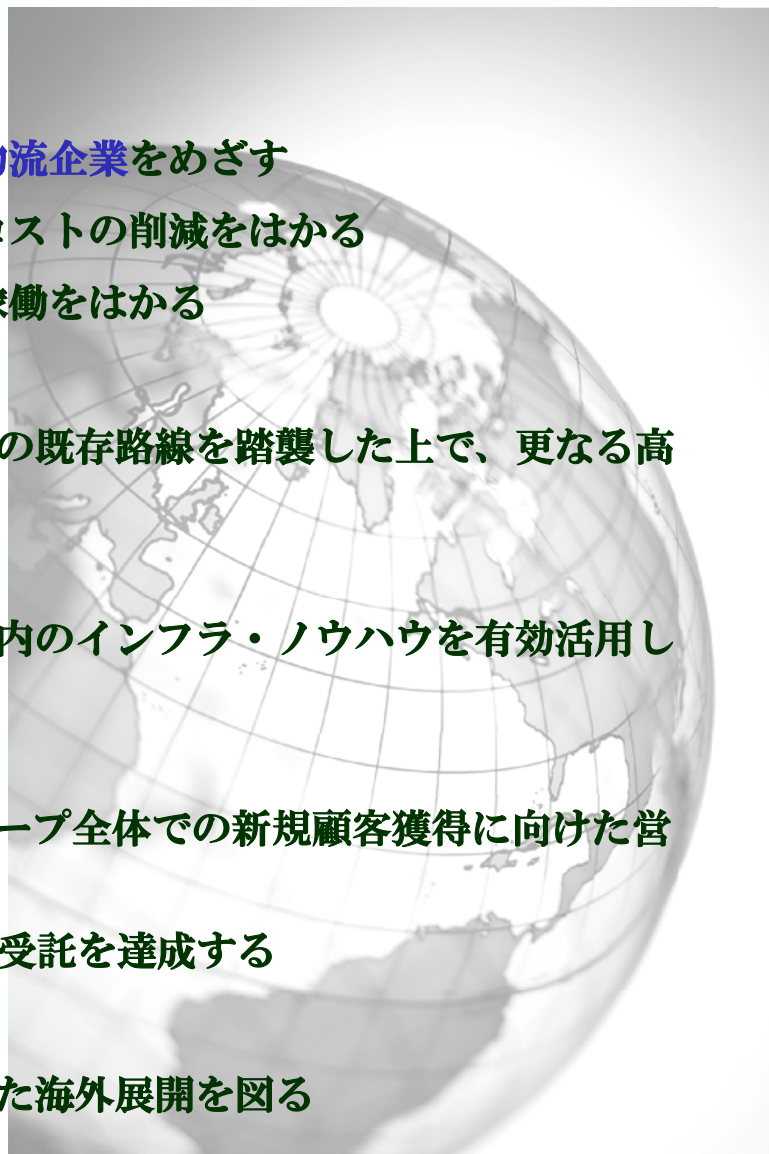
### 4. 新規顧客獲得に向けた取組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標**15社以上**の新規受託を達成する

### 5. 海外戦略への取組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る





# Ⅲ. 2016年3月期 決算実績

# Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

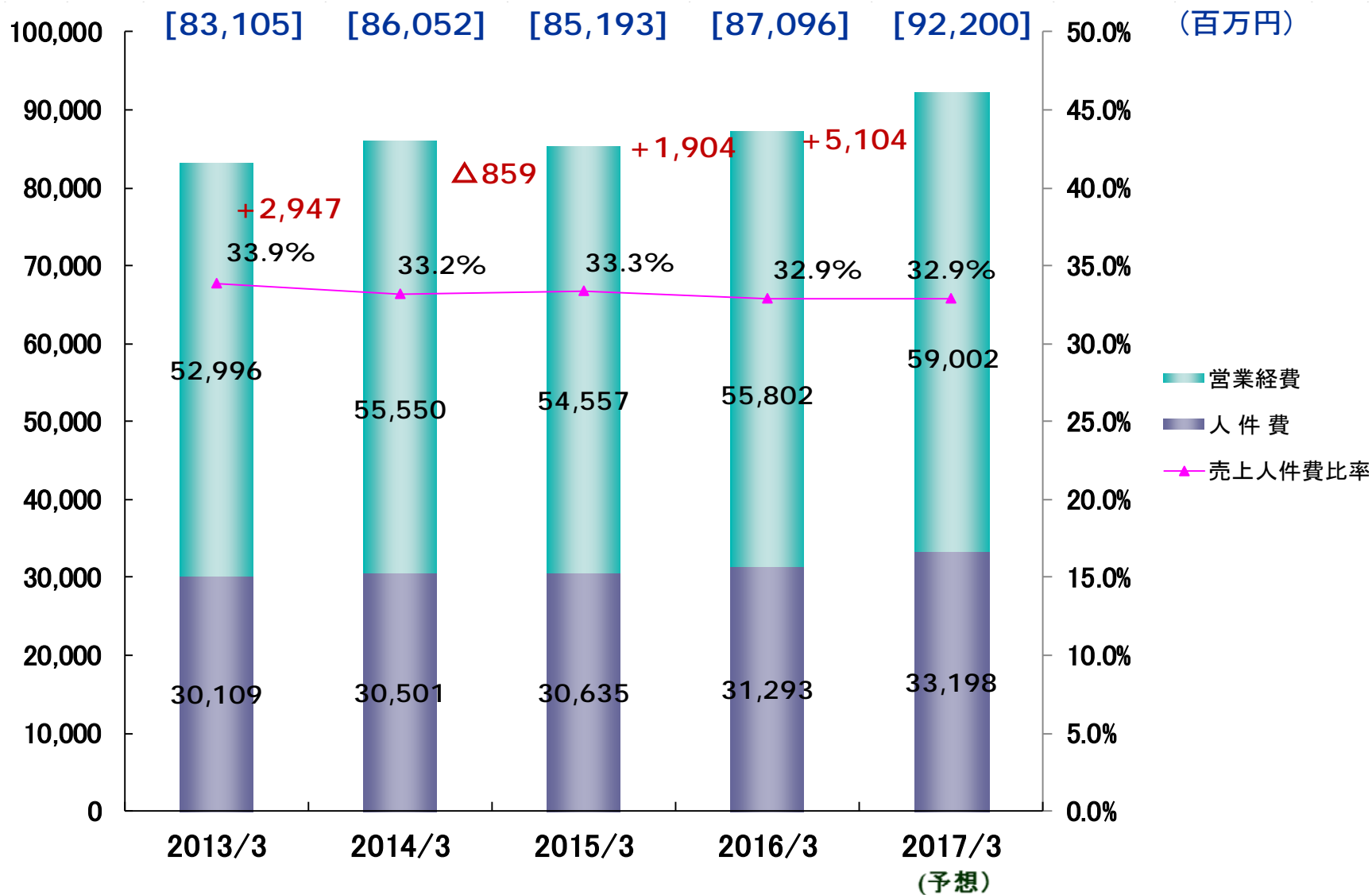
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	23,066	+531 (+2.4%)	23,301	+702 (+3.1%)	25,378	+891 (+3.6%)	23,457	+1,154 (+5.2%)
営業利益	2,019	+412 (+25.7%)	2,004	+461 (+29.9%)	2,452	+277 (+12.7%)	1,632	+226 (+16.2%)
経常利益	2,096	+366 (+21.2%)	2,045	+401 (+24.4%)	2,483	+256 (+11.5%)	1,697	+279 (+19.7%)
当期利益	1,171	+174 (+17.5%)	1,160	+238 (+25.9%)	1,388	+181 (+15.1%)	1,006	+240 (+31.5%)

# Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

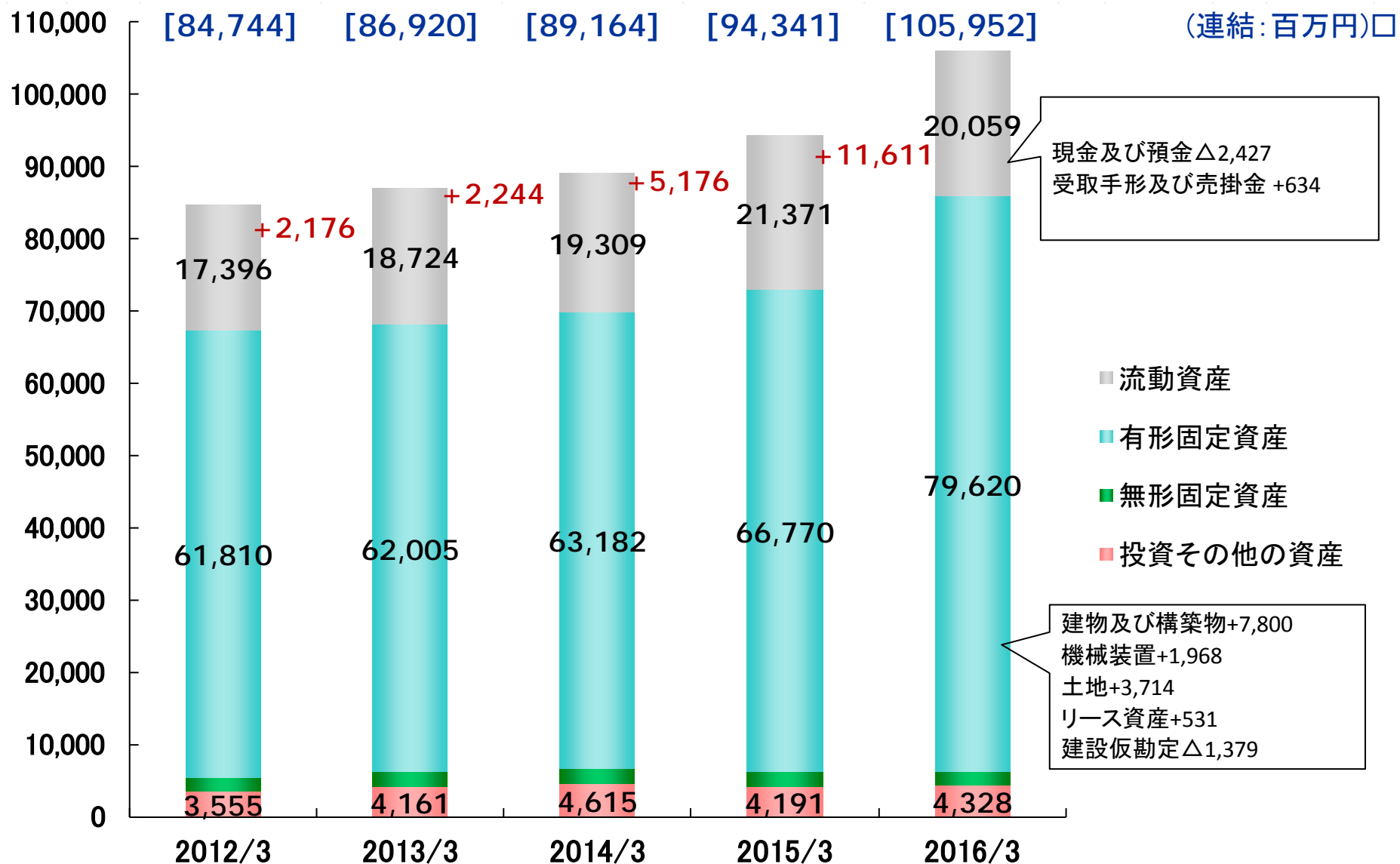
(百万円)

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	11,230	+487 (+4.5%)	11,569	+925 (+8.7%)	12,616	+728 (+6.1%)	11,564	+1,068 (+10.2%)
	営業利益	1,370	+81 (+6.3%)	1,306	+285 (+27.9%)	1,553	+76 (+5.2%)	1,085	+201 (+22.9%)
貨物自動車運送	営業収益	11,836	+44 (+0.4%)	11,732	△222 (△1.9%)	12,762	+162 (+1.3%)	11,893	+85 (+0.7%)
	営業利益	648	+331 (+104.4%)	697	+175 (+33.7%)	897	+201 (+28.9%)	545	+25 (+4.9%)

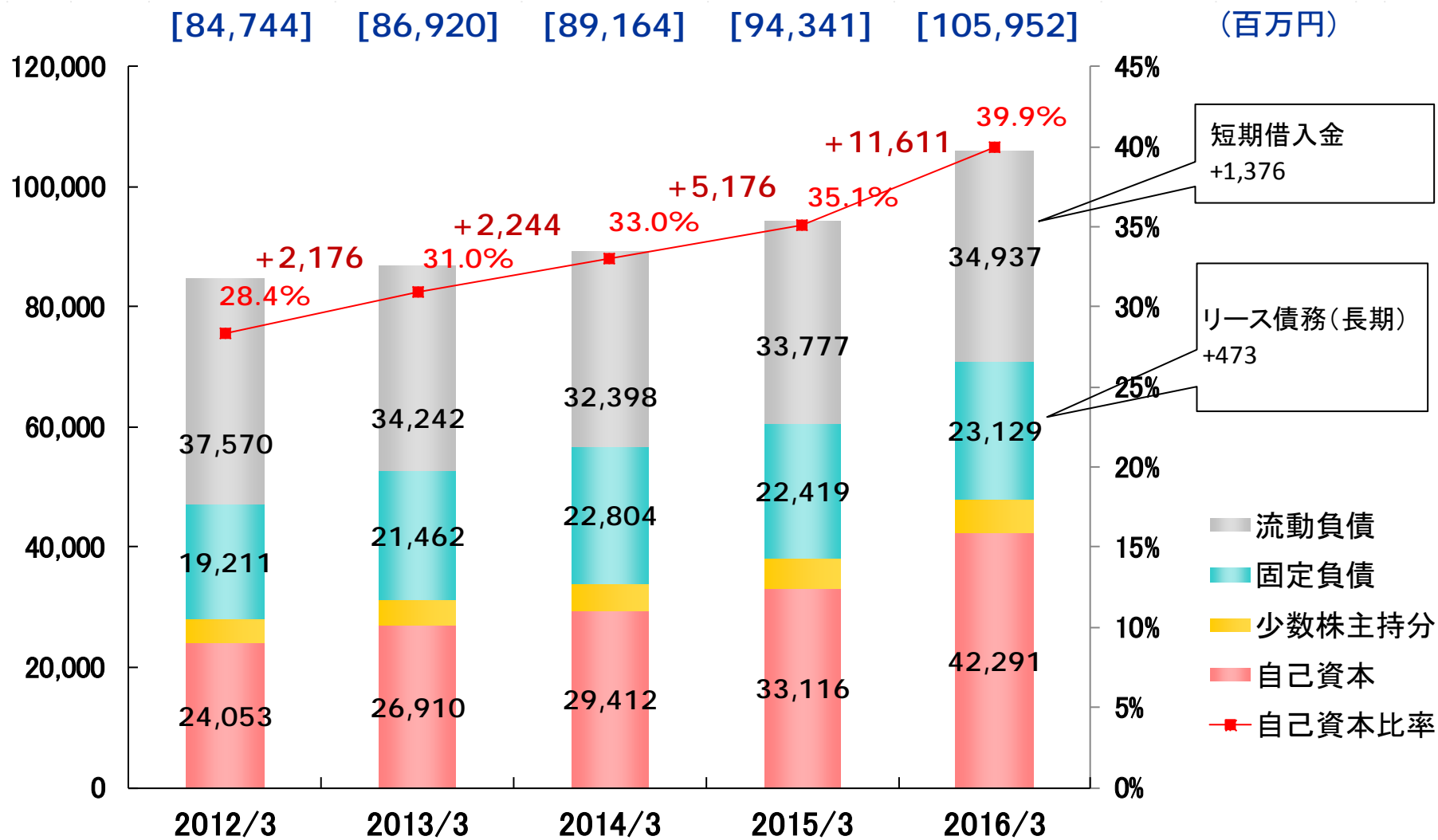
# Ⅲ-3. 経費・人件費



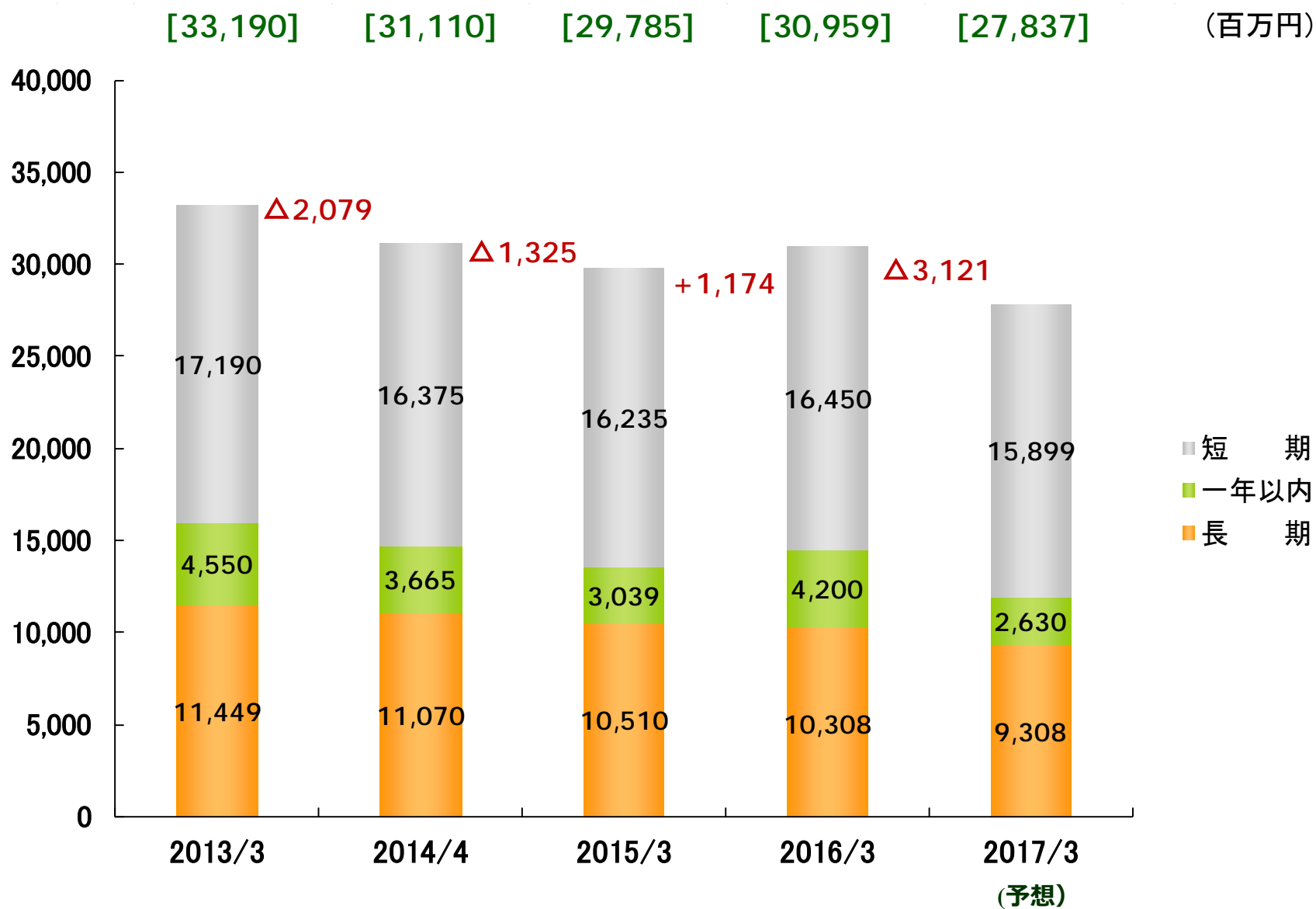
# Ⅲ-4. 貸借対照表 <資産>



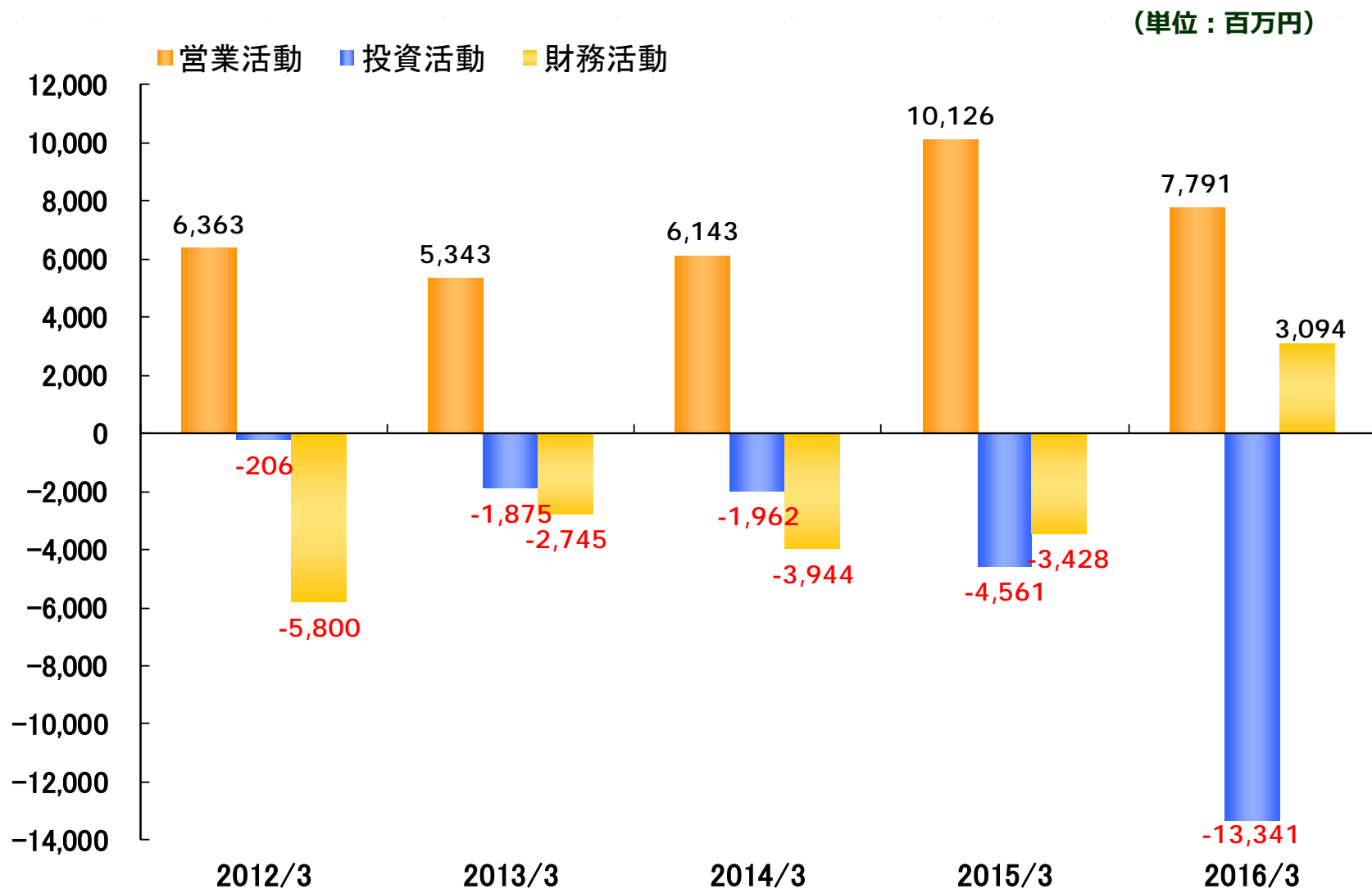
# Ⅲ-5. 貸借対照表〈負債・純資産〉



# Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）

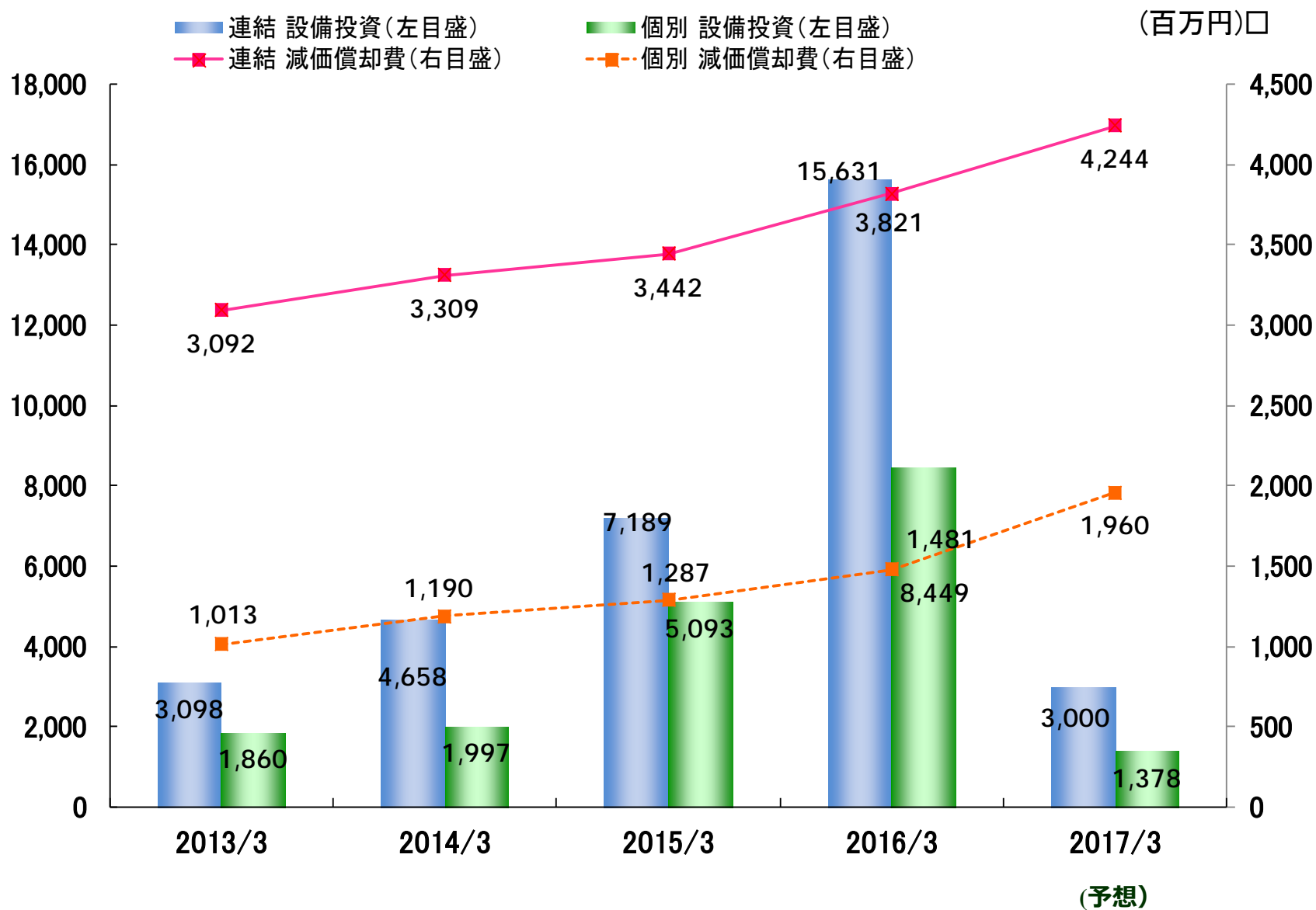


# Ⅲ-7. キャッシュ・フロー





# Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



# IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略



# IV-1. 近物レックス 平成27年度3月期業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2015/3	2016/3	前期比 (増減率)	2016/3	計画比 (増減率)
営業収益	36,681	36,238	-442 (-1.2%)	37,574	-1,335 (-3.6%)
営業利益	945	1,532	+587 (+62.1%)	1,255	+277 (22.1%)
経常利益	908	1,543	+634 (+69.9%)	1,212	+331 (+27.3%)

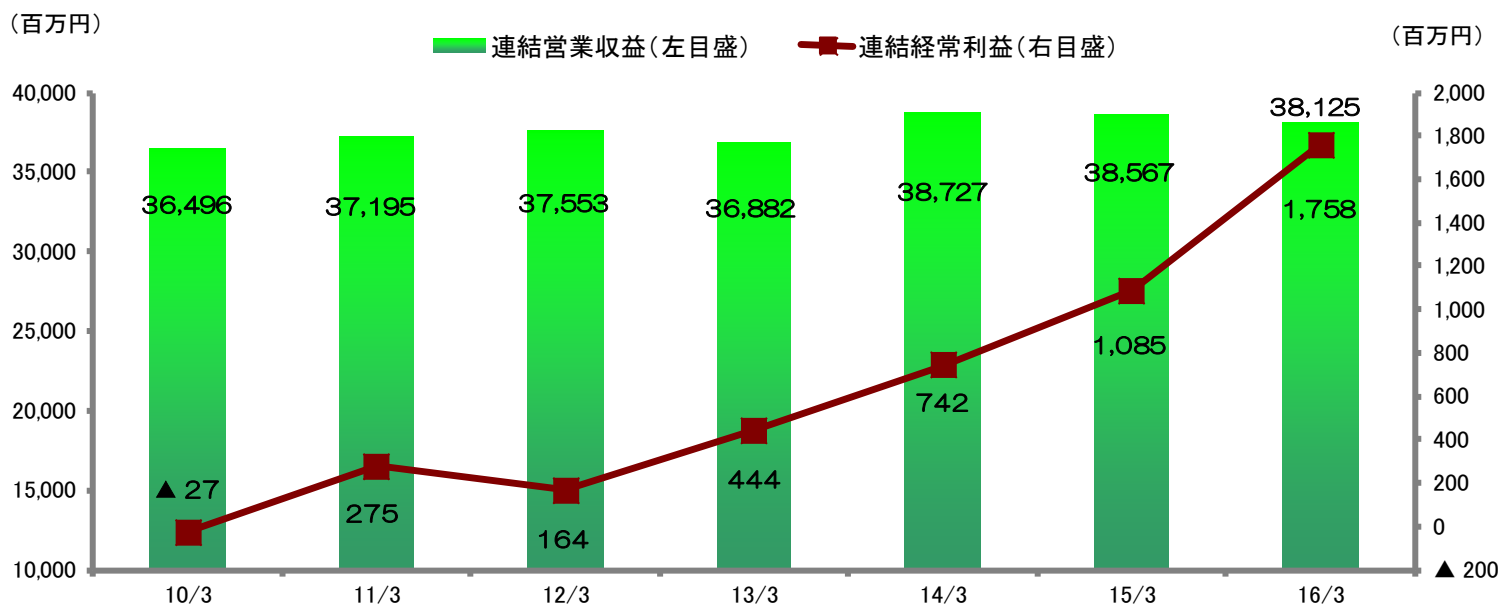
## IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)						近物レックス単体	
	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	増減額 (率)	2016/3	増減額 (率)
営業収益	37,553	36,882	38,727	38,567	38,125	-442 (-1.1%)	36,238	-442 (-1.2%)
営業利益	393	600	856	1,113	1,743	+630 (+56.6%)	1,532	+587 (+62.1%)
経常利益	164	444	742	1,085	1,758	+673 (+62.1%)	1,543	+634 (+69.9%)
当期純利益	239	257	299	576	1,087	+511 (+88.7%)	966	+510 (+112.2%)

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

# IV-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	減収	減収
営業利益	9期連続増益	9期連続増益
経常利益	4期連続増益	4期連続増益
当期純利益	7期連続増益	2期連続増益

# IV-4. 近物レックスの27年度成果

## 1. 適正利益の確保

- ・新運賃への切替(単価+2%)
- ・不採算取引の改善(値引の改善・手数料の負担軽減)
- ・同業とのアライアンスの開始(千葉・静岡)
- ・売電事業の拡大(三重)



## 2. 安全への取組み

- ・3大事故(車輻・労災・商品)の撲滅
- ・環境整備
- ・デジタコ装着(28年度全車装着完了予定)



# IV-5. 近物レックスの28年度取組み

## 1.収益性の向上

- ・営業力の強化による輸送量の拡大(顧客・グループ)
- ・東北新拠点での輸送力の強化
- ・輸送の効率化(アライアンス・共同集配・共同運行)

## 2.輸送の安全

- ・車両事故の撲滅(社内ルールの徹底)
- ・輸送品質の向上
- ・職場環境の健全化(施設修繕・社内監査の強化・コンプライアンス遵守)

## 3.雇用促進

- ・会社案内の充実、IT利用による採用の強化
- ・雇用条件の見直し
- ・高校生、女性の採用強化

## 4.設備投資・その他

- ・施設の維持更新(新拠点・既存修繕)
- ・車両代替
- ・財務体質の強化(計画的返済・金利交渉・未収管理の強化)



# IV-6. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	実績 2016/3	計画	
		2017/3	計画比 (増減率)
営業収益	36,238	37,209	+970 (+2.6%)
営業利益	1,532	2,089	+556 (+36.3%)
経常利益	1,543	2,035	+492 (+31.9%)



# V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

# V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、  
地味ではあるが信頼された重要な存在。  
当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の  
展開と継続的で質の高い成長を図り、  
お客様第一、品質第一を基本に、企業としての  
社会的責任を果たしてまいります。  
また、短期的な収益にとらわれず、  
長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における  
質的内容の日本一を目指します。

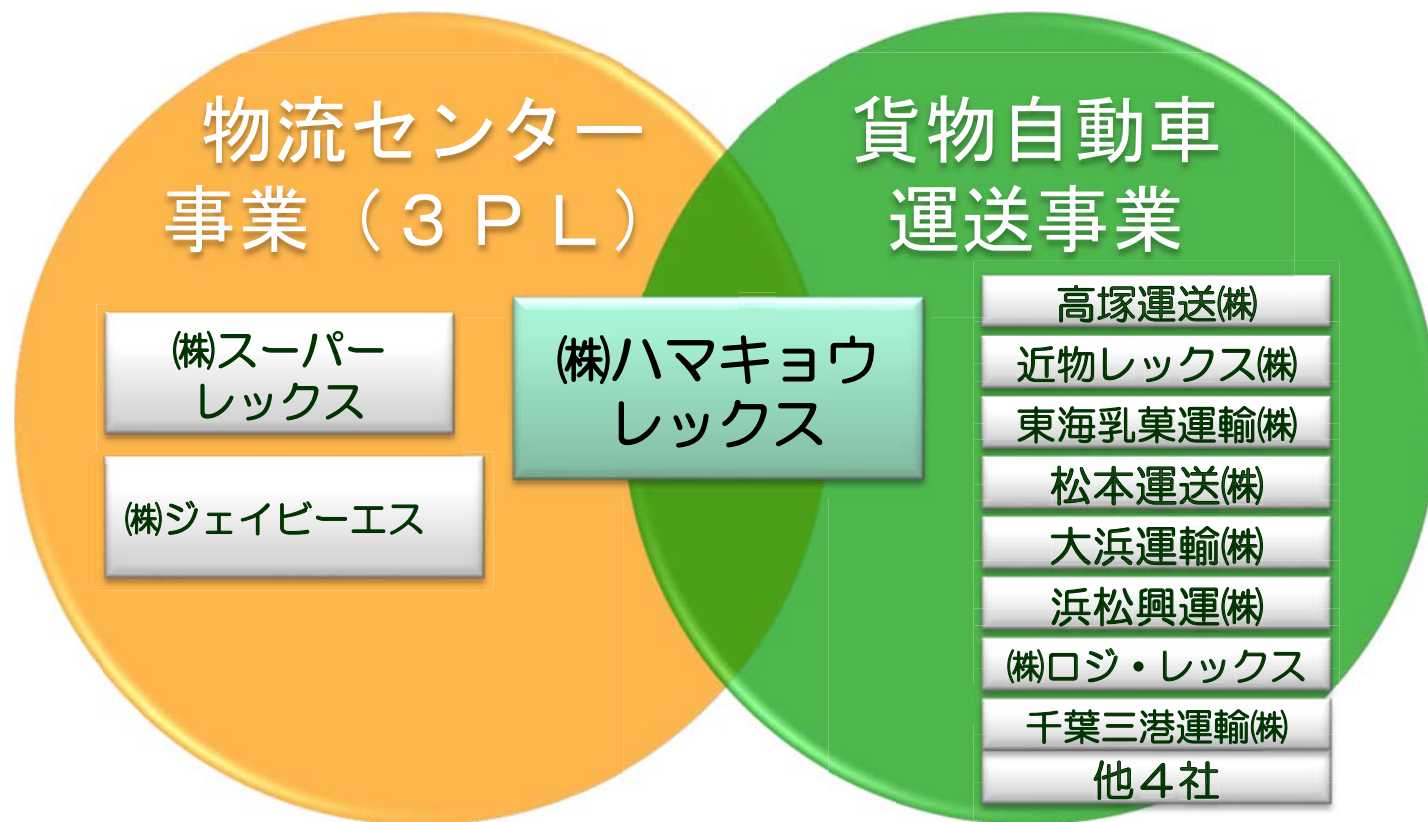


## 会社概要（2016年3月31日現在）

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス  
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 昭和46年2月
- 資 本 金 65億4,733万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 4,150名、単体 708名
- 発 行 済 株 式 数 19,012,000株
- 株 主 数 3,930名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 14社
- 売 上 高  
(2016年3月期) 連結 952億04百万円  
単体 393億40百万円
- 経 常 利 益  
(2016年3月期) 連結 83億22百万円  
単体 48億05百万円

## V-4. 事業紹介

当社グループは、  
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に  
展開しております。



# V-5 M&Aの取得状況

社名	千葉三港運輸株式会社
本社所在地	千葉県市原市姉崎海岸12番地
代表者	代表取締役社長 本松 尚久
設立	昭和42年2月15日
資本金	50百万円
株主	株式会社ハマキョウレックス (東証一部上場)
事業内容	一般貨物自動車運送事業、自動車運送取扱事業、産業廃棄物収集運搬事業、倉庫業/トランクルーム
従業員	47名 (平成28年3月31日現在)
売上高	6億46百万円 (平成28年度)

## 主な事業内容

### 1. トラック輸送

関東全域をはじめ、全国各地の協力会社とのネットワークを通じた輸送。

### 2. 産業廃棄物収集・運搬

廃棄物処理法に基づいた、産業廃棄物の適正な収集・運搬。

### 3. 倉庫・トランクルーム

お客様からお預かりした大切な物を品質を損なうことなく保管。



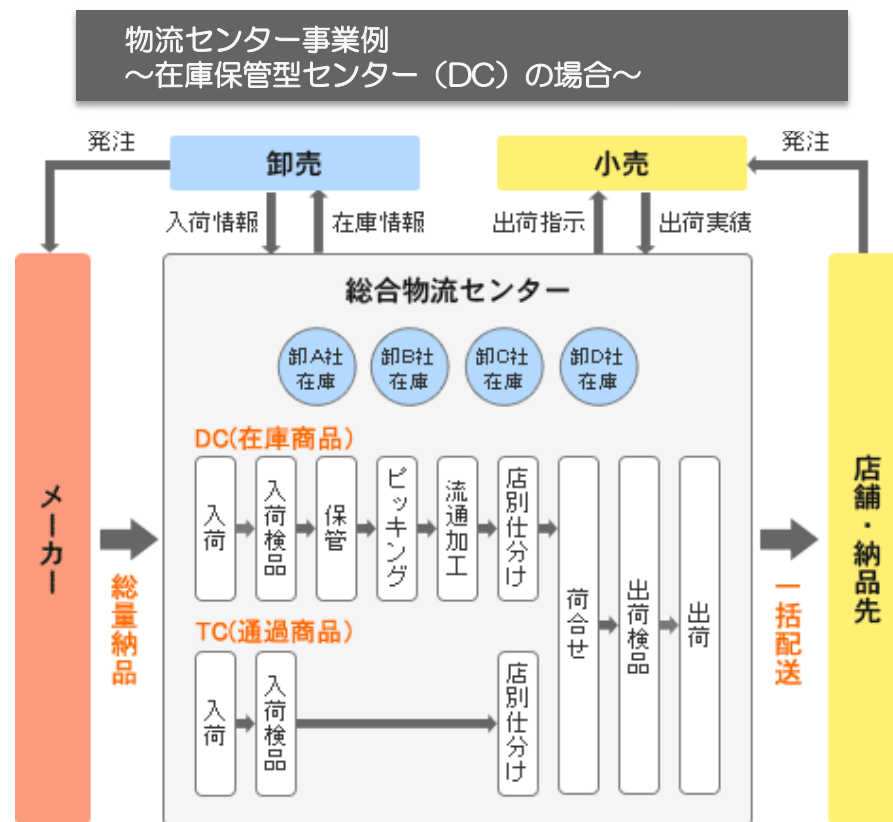
# V-6. 物流センター事業

当社は**3PL(3rd Party Logistics)**をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



# コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支<sup>※1</sup>**」・「**アコーディオン方式<sup>※2</sup>**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。



# V-8. 拠点紹介

## 主要な事業所及び関係会社



# IR関係問合せ先・担当者

---

● 執行役員 管理部長

山田 力也

● 経営企画室 課長

竹内 義之

TEL 053-444-0054



#### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。